

---

# 空の天幕（テント）

夢乃良

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空の天幕<sup>テント</sup>

### 【Nコード】

N3494D

### 【作者名】

夢乃良

### 【あらすじ】

俺がオマエに語るテントの話。都市伝説ではない、本当にありそうなお話

これは、俺のダチのダチが体験したことらしい。

あ、信用してねえ顔だな？

都市伝説とかその手の類だろうって？

バカ言うなよ。アツチ系は「友達の友達から聞いた」だろ？

俺のはダチのダチが「体験」したんだよ。

ちよつとは信憑性あるだろ？

その…ダチのダチ…面倒だな。

体験したヤツのさらにダチが電話してきたんだとさ。

面倒だから、オマエが体験したって言う「ダチのダチ」。俺はそのさらにダチって事にしようぜ。

俺はある日変なのを見たんだよ。

んで、オマエにケータイで電話したんだ。

「変なのが見えるぞ」ってな。

オマエが「幽霊の類でも見たのか」ってバカにしゃがるから、俺は見たモノを説明した。

「空が三角に区切られてる」

俺が説明した場所はオマエん家からじゃ見えないから、オマエは確認してねえけどな。

で、俺はこう続けたんだよ

「河川敷のあるあたりでどうも三角に区切られてるっぽい」

俺の位置からだど河川敷はちよつと遠めだ。車で10分ってところか。

オマエん家からだともつと遠い。車だったら30分くらいかかる。

「ちよつと見てくる」

そういつて俺はケータイを切った。

それから大分経って、夕飯も済んだ頃にオマエのケータイが鳴った。

相手は俺だ。

「あの場所に空と同じ色のテントが立ってた！」

俺はオマエ相手に色々まくし立てた。

俺が見たのは、天幕<sup>テント</sup>だった。サーカスとかの巡業とかで見るだろ？あんな感じの天幕だった。

昼も夜も青空と同じ色で空を円錐状に切り抜いてた。そんな風に見える出で立ちだ。

巡業のテントにしちゃ派手なのに、興行してるようには見えなかった。

俺はオマエと話をしながらその場所から離れた。

しばらくして振り向くと、空を三角に区切る青は見えなくなった。俺とオマエの間で「興行してないから電気もついてないし、見えなくなったんだろう」って事になった。

一応ケリついたんだよ。

それからしばらく俺もオマエも変なテントのことなんて忘れてた。で、何の気なしに話をする機会があつてさ、お互い不審に思ったんだな

「夜なのに何でテントが青だつてわかつたんだ？」ってな。

そんなのオマエは知ったこっちゃない。現場にも行ってねえしな。俺は説明できなかった訳よ。

現実として青いのは見たけども気がついたら見えなくなつてたし。

結局、俺とオマエはテントのあつた場所に行くことにした。

納得いかなかったしな。夜、興行してないテントで、しかも河川敷みたいな辺鄙な場所だから街灯もない。

なんで青く見えたか検証しに行つたわけだ。

到着したのは夕方くらいだったかな。

確かにオマエの目でも確認したのさ。青いテント。

周りをぐるっと見回っても入り口らしきモノも巡業してる形跡も何もない。

ただテントだけどんって立ってるんだ。

オマエは気味悪がって「帰ろうぜ」みたいな事言ったけど、俺は興味があった。

テントの裾を巻くって俺は中に入っていった。

お前は「待ってるから何かあったらケータイに連絡しろ」と俺に言った。

日が暮れて夜になる頃、オマエのケータイが鳴った。

当然、俺だ。

「色々見たけど中は広くて何もない。外に出る」

そう俺が言ったのが最後だ。

いくら待っても俺は出てこない。

ケータイにかけても俺は出ない。

オマエは諦めてかえっちまった。

その後、俺の存在は他のヤツらから忘れられた。

オマエだけが俺を覚えてる。俺の親も、他のダチの誰も俺を忘れちゃった。

そのうちオマエは「俺」という架空の存在の話をしてると思われ始め、オマエは俺のことを話さなくなった。

そしてオマエはまた見つけたんだよ、青いテント。

ダチに話したオマエは…何で入ってきた？

(後書き)

星新一先生のショートショートを目指して書きましたがいかがだったでしょうか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3494d/>

---

空の天幕（テント）

2010年12月23日01時04分発行